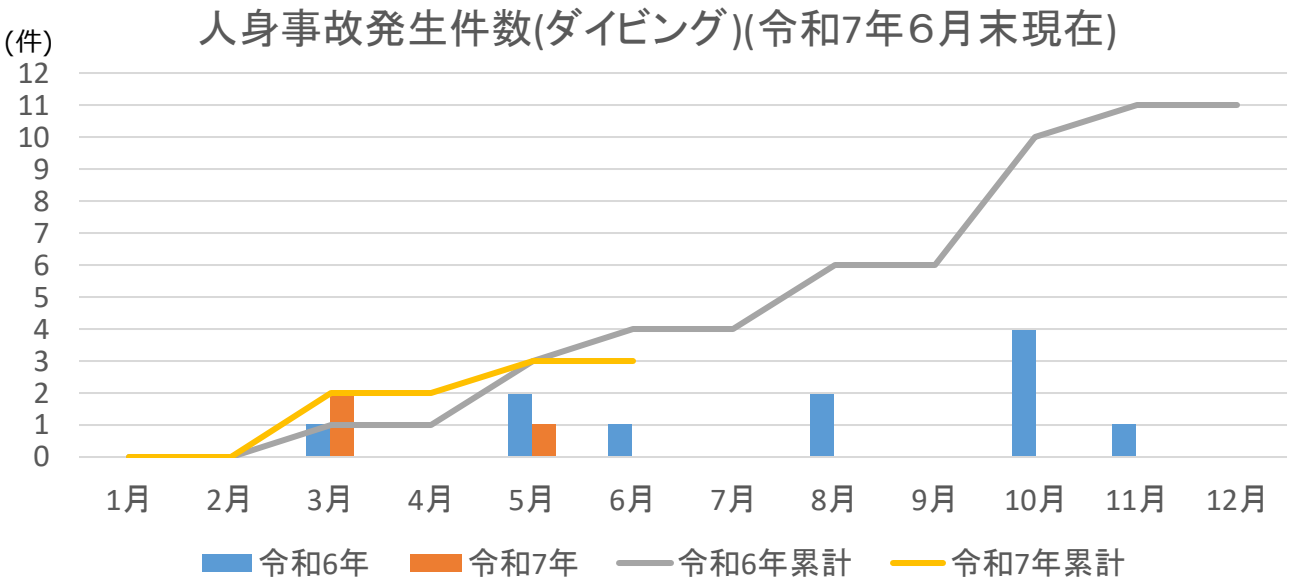
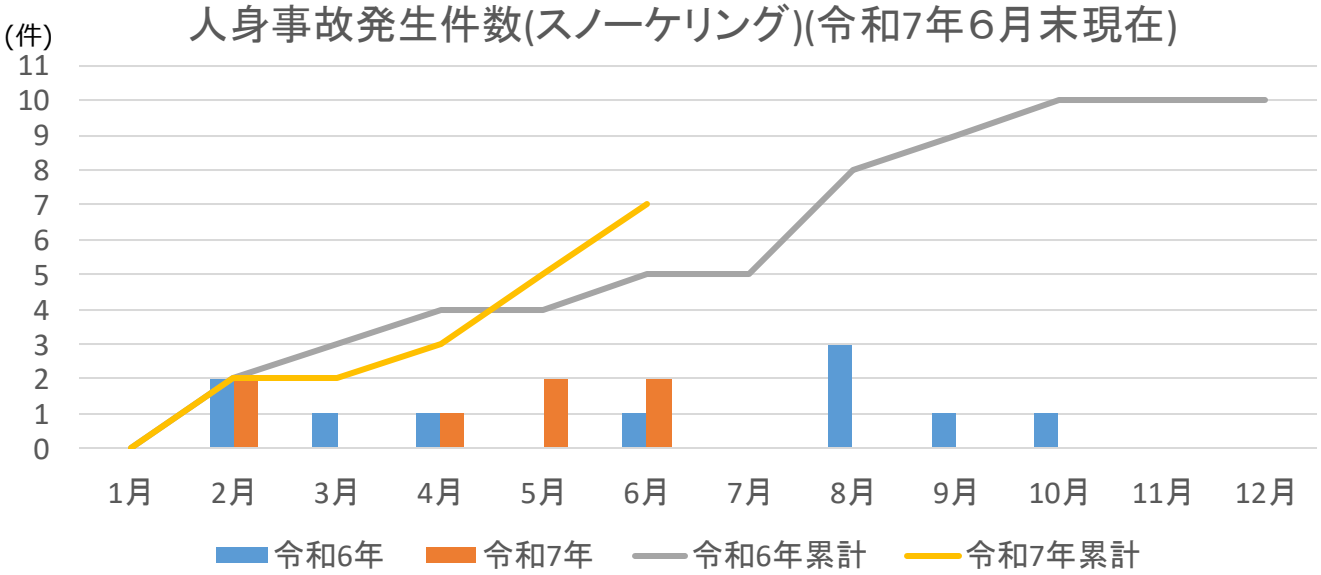
事故統計（ダイビング・スノーケリング）/那覇海上保安部管内

那覇海上保安部交通課





＊ 管轄区域：５市１１町村
那覇市、豊見城市、糸満市、浦添市、
宜野湾市、嘉手納町、北谷町、南風原町、
八重瀬町、久米島町、恩納村、読谷村、
渡名喜村、粟国村、座間味村、渡嘉敷村

ダイビング・スノーケリングの事故情報(令和7年4月～6月)

JCG 那覇海上保安部交通課

時期	活動内容	場所	事故者	被害	経緯
4月	スノーケリング	ナガンヌ島近辺	20代 女性 外国人	軽症	事故者は友人3名とスノーケリングを予約し、他のツアー客とともにナガンヌ島北側にてスノーケリングを開始。その後、休憩をはさみながら1時間ほどスノーケリングを実施した。船上において事故者と友人2名の計3名で喫煙していたところ、喫煙中に倒れ、痙攣した。事故者はしばらくして、意識が回復した。帰港後に沖縄協同病院に搬送。医師による診断の結果はてんかん。病院での処置、入院はなく当日退院した。
5月	スノーケリング	渡嘉敷島	30代 女性 外国人	軽症	事故者は両親とともにスノーケリングツアーに参加。浅い海域にてスノーケルの練習を実施後にエントリー開始。事故者はツアーガイドが引っ張っていたフロートに捕まっていたが、他の人のフィンが当たり鬱陶しくなった事から、帰りは自力で泳いで帰れると判断し自らフロートを離して泳いだところ、マスクに水が入り、パニックとなり海水を誤嚥した。事故者がフロートから離れ、溺れている事にガイドが気付いて、ライフセーバーに伝えた。その後、ガイドとライフセーバーが事故者を陸上に引き上げた。引き上げ時に意識はなかったが、AEDを使用し胸骨圧迫を行ったところ、徐々に意識が回復した。その後、ドクターヘリにて病院に搬送された。診断の結果は、誤嚥性肺炎であった。
5月	スノーケリング	座間味島	20代 女性 外国人	軽症	事故者はビーチに一人で訪れ、スノーケリングを開始した。スノーケリングを開始して約30分後、浜から20m、水深4mあたりの地点でスノーケリング中に誤ってスノーケルに海水が入りパニックとなったことから溺れ、これに気づいたライフガードが救助した。救助後の事故者は意識があり、自力歩行も可能であったが、海水を飲んだ恐れがあったことから診療所に搬送された。診断の結果、溺水と診断され、即日退院した。
5月	ダイビング	恩納村沖	20代 女性 県外	軽症	事故者は夫と共に来沖し、体験ダイビングに参加した。インストラクターから資機材や遵守事項の説明を受けた後ダイビング船で沖に向かい、インストラクターを含め3名にてダイビングを開始した。開始10分後事故者が体調不良を訴えたため船上にあがり休憩。その後、港に戻ったが、事故者の体調が回復しておらず、上陸後に嘔吐、頭痛、胃痛、手の痺れを訴えたため救急車を要請。搬送先の病院にて過換気症と診断された。
6月	スノーケリング	渡嘉敷島	60代 男性 県外	死亡	事故者は、社員旅行で沖縄を訪れ、社員らとビーチでスノーケリングを行った。スノーケリング開始から約1時間後、海上でうつ伏せの状態で浮いているところを他の観光客が発見・救助した。その後到着した救急車で診療所に搬送されたが、医師により死亡が確認された。事故者は救命胴衣未着用であった。(詳細調査中)
6月	スノーケリング	座間味島	60代 男性 県外	死亡	事故者は、観光で沖縄を訪れ、友人とビーチでスノーケリングを行った。スノーケリング開始から約1時間後、波打ち際付近で浮いているところをライフガードが発見・救助した、その後同ビーチに到着した医師により、蘇生措置が行われたものの、死亡が確認された。事故者は救命胴衣未着用であった。(詳細調査中)

外国人観光客にも適切なガイドを

近年、外国人観光客の増加に伴い、海難事故に遭われる外国人も増えています。
外国人を受け入れられているマリンレジャー事業者は、外国人にも注意事項を適切に伝えられるように、外国語の注意事項を記載したものや外国語話者の配置などを行い、外国人がこれから行うマリンレジャーにどのような危険があるかを理解できるよう努めてください。

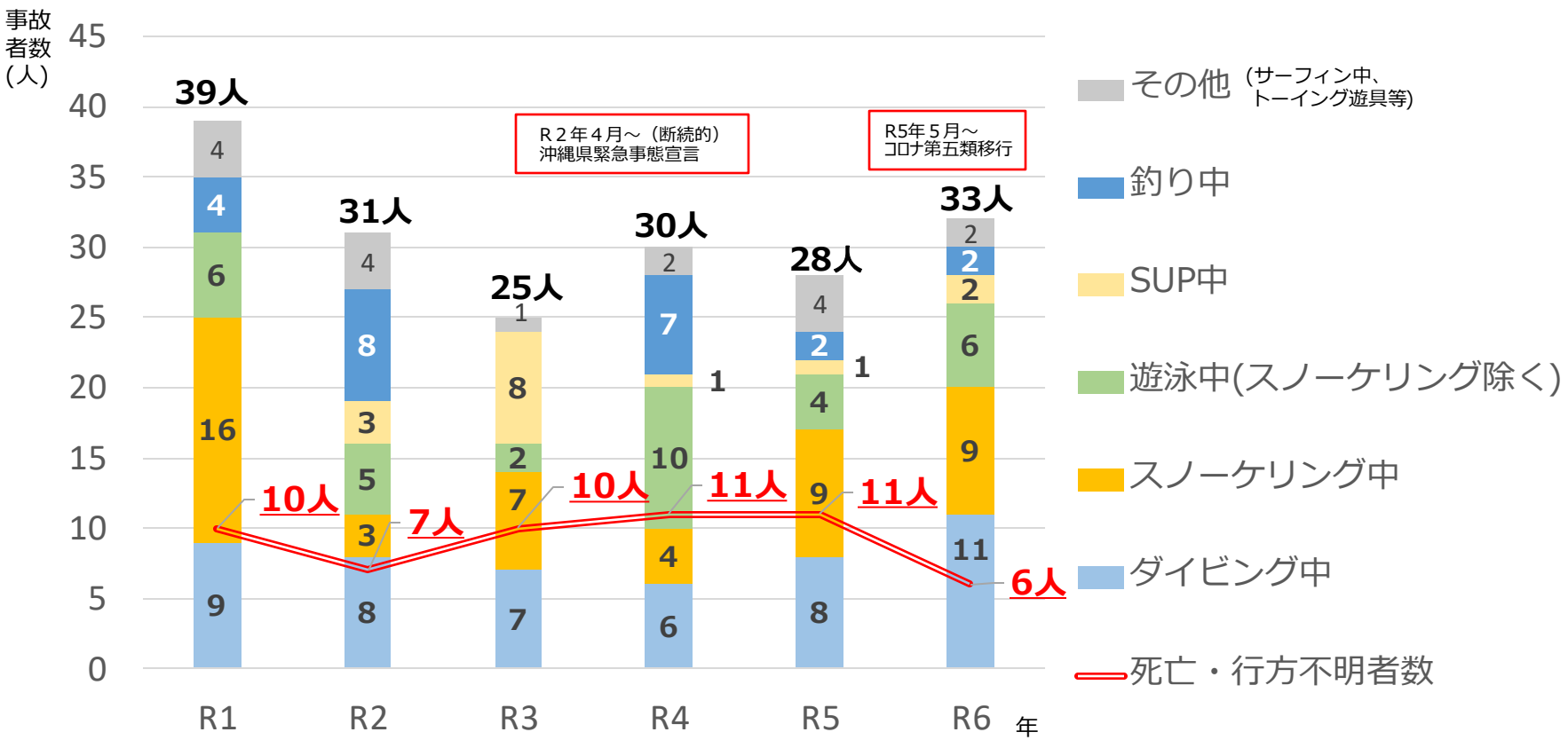
“ベテラン”ダイバーでも過信せずご注意を

令和6年、那覇海上保安部管内では、3名の方がダイビング中の事故により、亡くなられています。年代別内訳は50代が2名、60代が1名といずれも年配の方です。
「昔はよくダイビングを行っていたが、ここ最近はしておらず、今回は久しぶりにする」といった、ブランクのあるダイバーは、自身の体力の衰えを十分に把握していない可能性があります。ガイドは、「ベテランだから大丈夫だろう」と安易に考えず、ツアー客の様子を適切に監視し、異変を見逃さないようお願いいたします。

【事例1】
ダイビング開始から約10分後、ガイドが事故者の意識が低下している状態に気づき海面に浮上するも意識不明となった。帰港後に病院に搬送されたが死亡した。
【事例2】
1本目のダイビングの途中で事故者が急遽浮上し、気付いたガイドが意識朦朧としている事故者をダイビング船に引き揚げた。帰港後に医師により死亡が確認された。

那覇管内のマリンレジャーに伴う人身事故発生状況

那覇海上保安部交通課

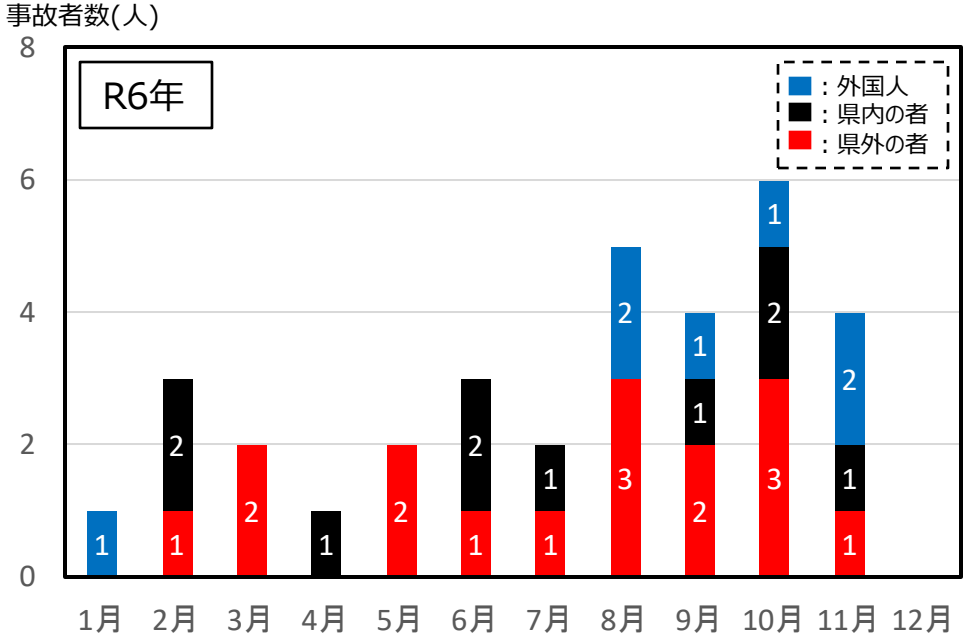


管内の特性

- マリンレジャーに伴う人身事故総数　R６年３３名　※**R５年比５名増**
  うち死亡者数　R６年　６名　※**R５年比５名減（那覇部発足以来最小）**
- **ダイビング中、スノーケリング中の事故の割合が高い**
- SUPや釣りは各年によって、発生トレンドが大きく異なる
  例　SUP：R６年２名　５、４年１名　３年８名／釣り　：R６年２名　５年２名　４年７名

マリンレジャーに伴う人身事故の月別発生状況（前年比）

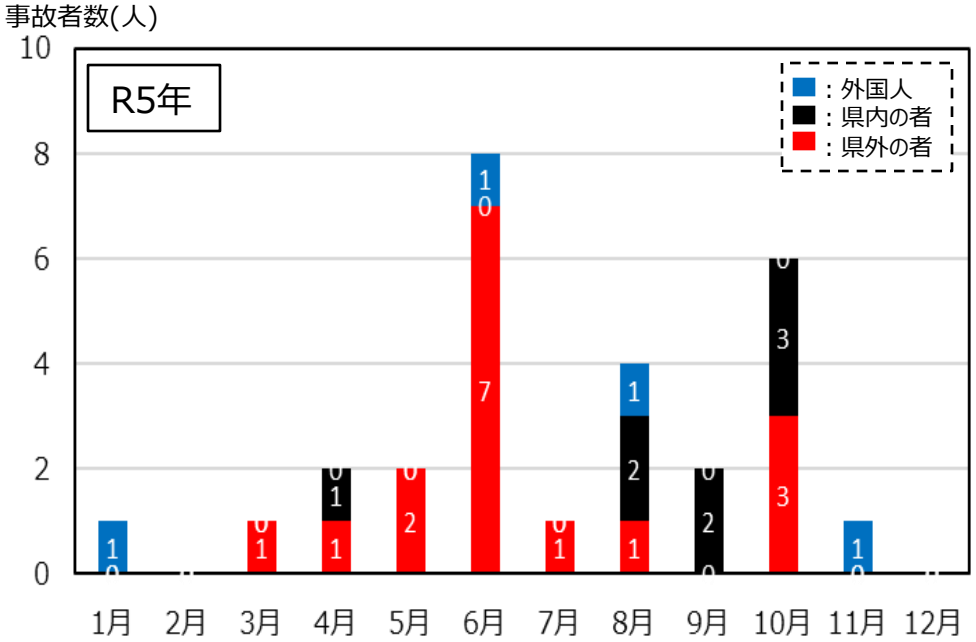
那覇海上保安部交通課

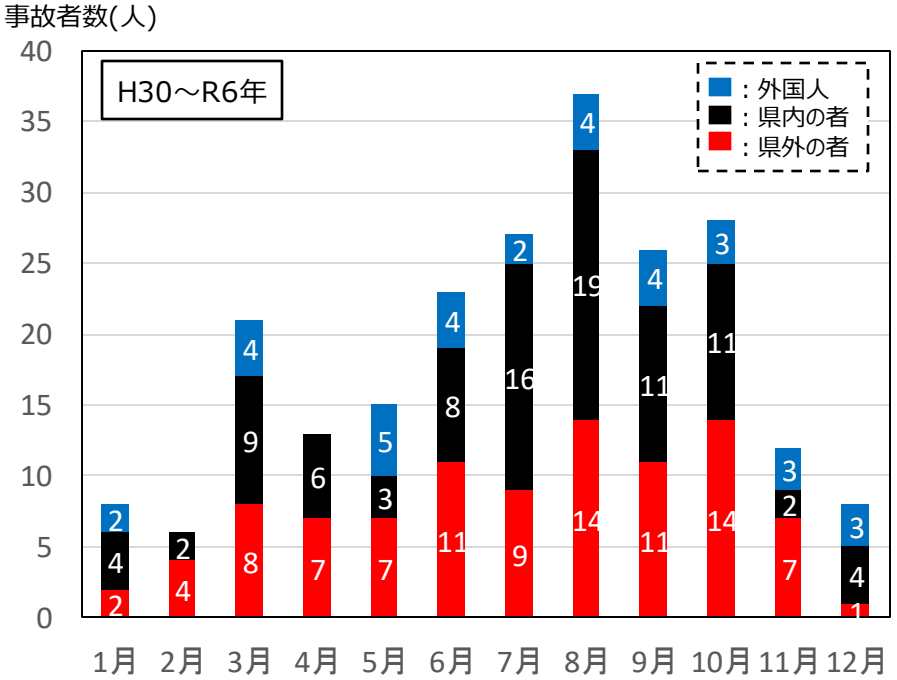


R6年	県外の者	県内の者	外国人
合計 （死者）	16名 （3名）	10名 （2名）	7名 （0名）

R5年	県外の者	県内の者	外国人
合計 （死者）	16名 （6名）	8名 （4名）	4名 （1名）

- R6年の観光客約９６６万人（前年比約１４３万人増加）
- 前年比で「県外の者」の事故者数は同一。
- 「県内の者」「外国人」の事故者数が増加。
- 年間通してマリル事故が発生する状況。
- 過去６年間のトレンドとしては、６～１０月がハイシーズン



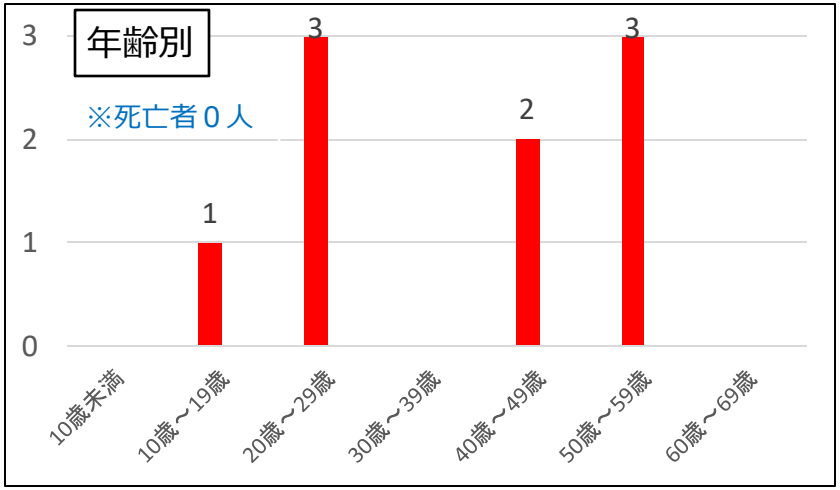


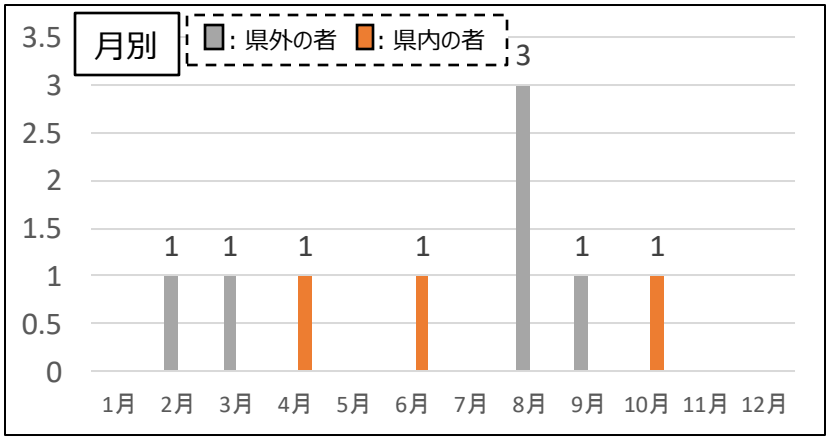
令和6年発生件数が多かったマリンレジャー事故の発生状況

那覇海上保安部交通課

遊泳中（スノーケリング）

■：事故者数　■：死亡者数

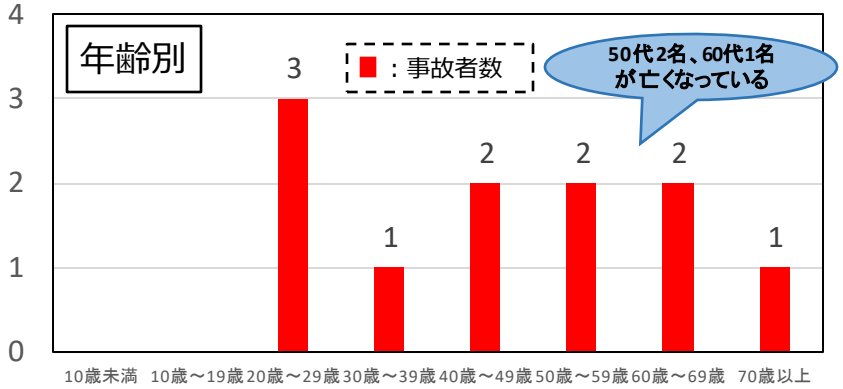


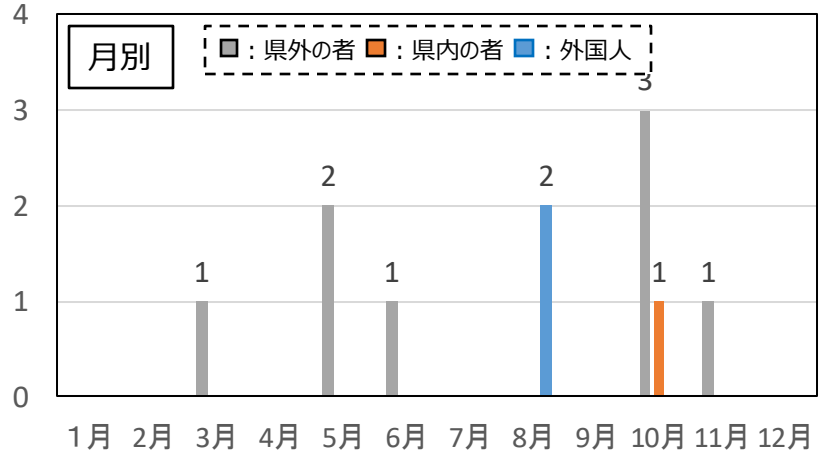


- ２０代と５０代での事故発生率が高いが、死亡者なし。
- 気温が高くなり始める３月から事故が発生し、下がり始める１１月以降は事故ゼロ。
- 県外の者の事故率が高い。（9名中６名）

【対策】観光客に対し、様々な手段で安全啓発
関係機関等と合同で業者指導・安全指導

スクーバダイビング中

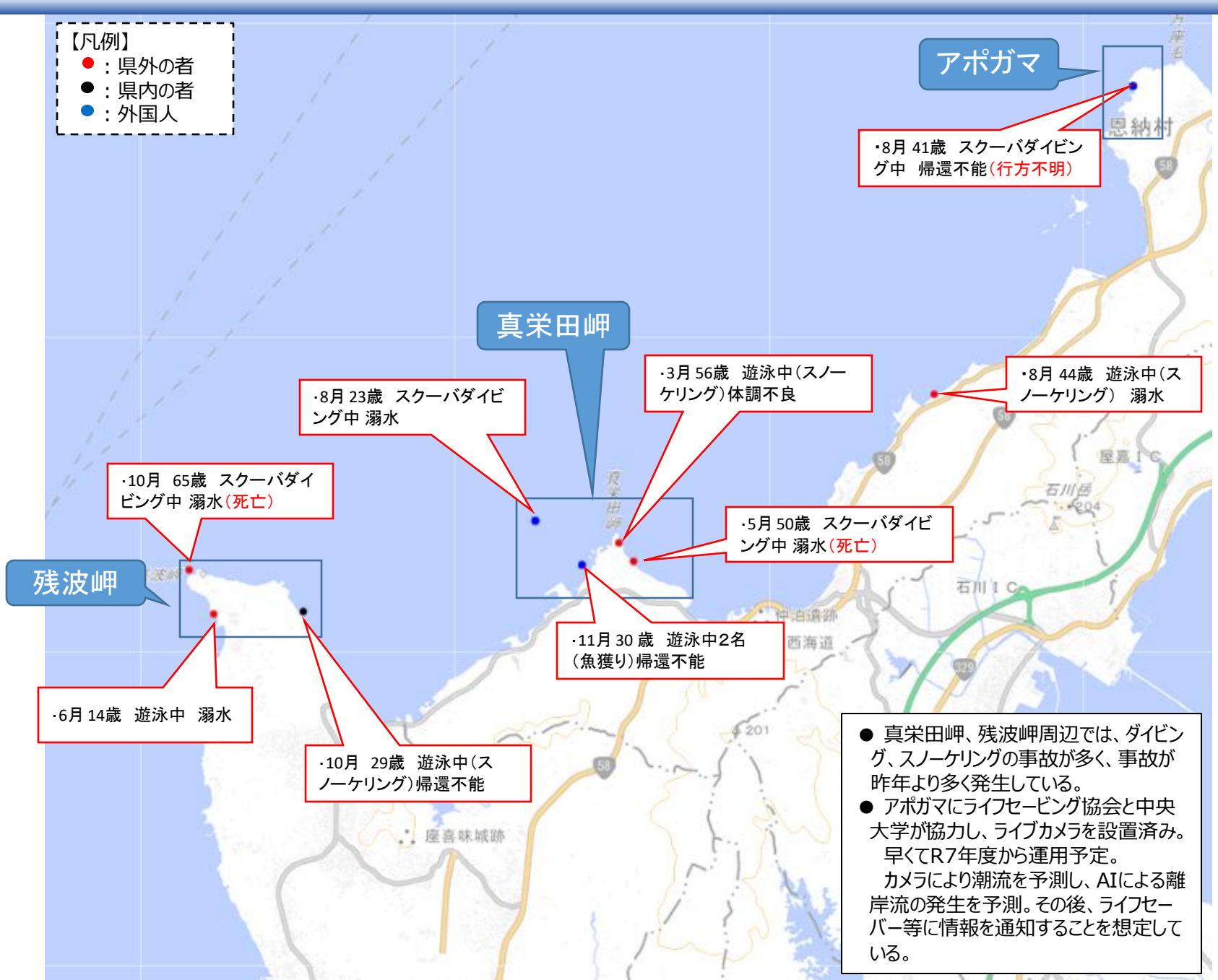




- 死亡者全員が５０歳以上。
- スクーバダイビングは１年をとおして行為者がおり、例年10月以降にも事故が発生している。
- 県外の者の事故率が高い。

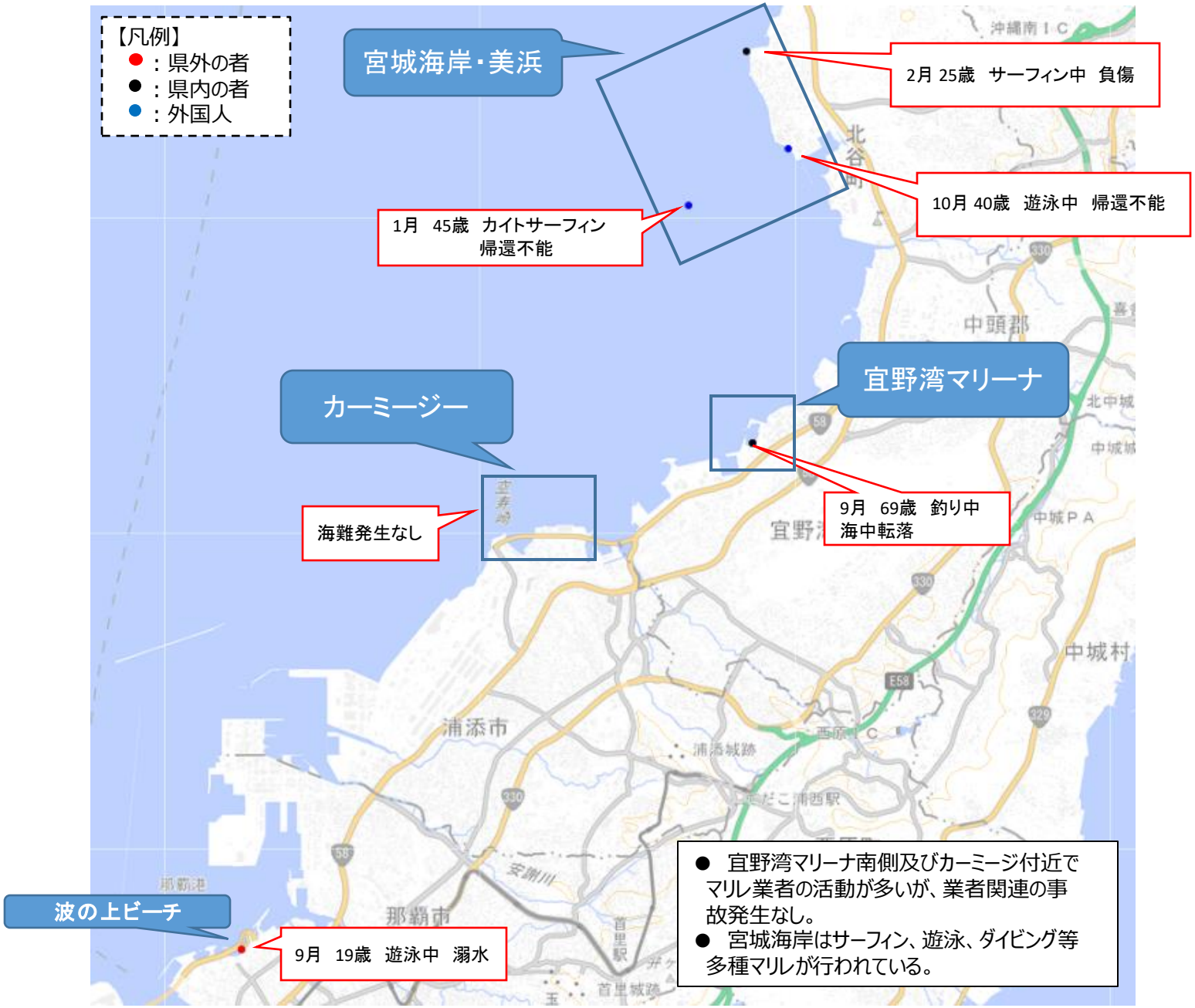
【対策】観光客に対し、様々な手段で安全啓発
関係機関等と合同で業者指導・安全指導

【機2】令和6年マリンレジャー事故発生場所（恩納村、読谷村）

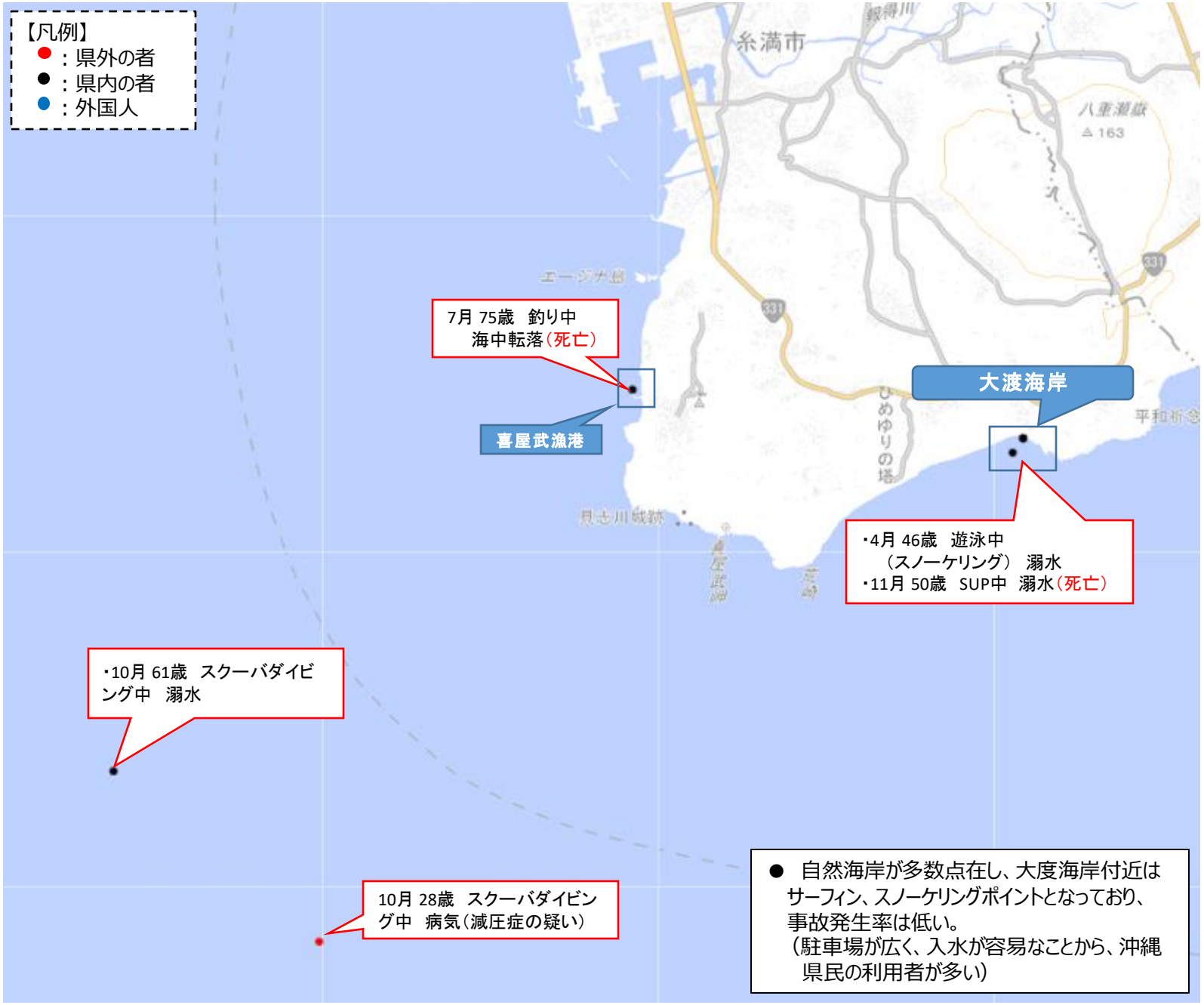


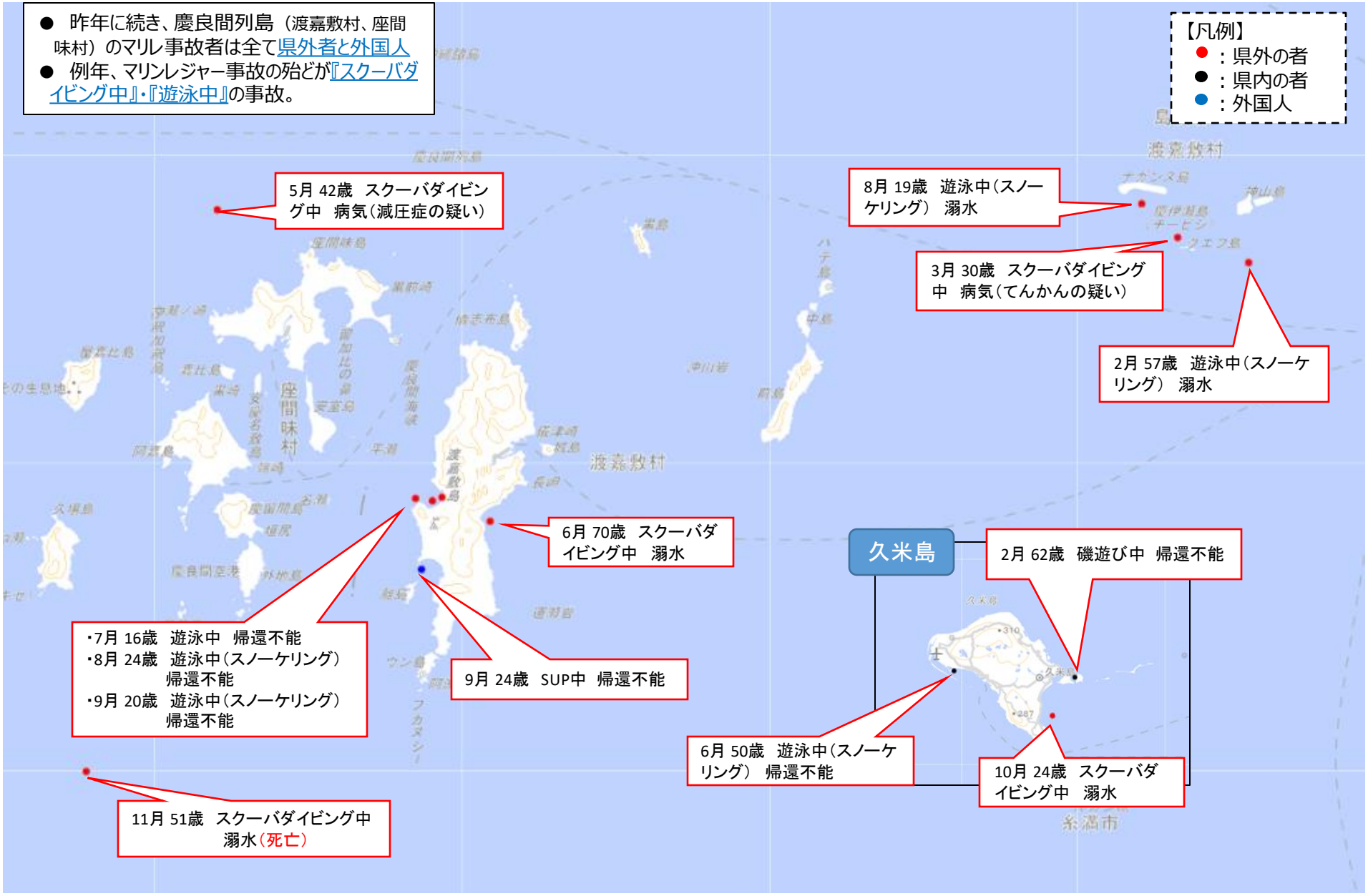
- 真栄田岬、残波岬周辺では、ダイビング、スノーケリングの事故が多く、事故が昨年より多く発生している。
- アポガマにライフセービング協会と中央大学が協力し、ライブカメラを設置済み。
  早くてR7年度から運用予定。
  カメラにより潮流を予測し、AIによる離岸流の発生を予測。その後、ライフセーバー等に情報を通知することを想定している。

令和6年マリンレジャー事故発生場所（嘉手納町～那覇市）



【機2】令和6年マリンレジャー事故発生場所（豊見城市、糸満市、八重瀬町）



【機2】令和6年マリンレジャー事故発生場所（渡嘉敷、座間味、久米島）

- 昨年に続き、慶良間列島（渡嘉敷村、座間味村）のマリレ事故者は全て県外者と外国人
- 例年、マリンレジャー事故の殆どが『スクーバダイビング中』・『遊泳中』の事故。